

秋まつりの歴史

現在の秋まつりのルーツは江戸時代にあります。1608年、日照りに困った鹿沼の人々が今宮の神に雨乞いをしたところ、大雨が降りました。人々は、この神徳を子孫に伝えるため、毎年、^{ほこ}山・^{さかさ}鉾を奉納するようになったと伝えられています。



『今宮神社大祭典記念写真帖』
(大正7年発行)

当初は通りをお囃子や歌舞で練り歩くもので、屋台は舞台装置でしたが、江戸時代の後半になって芝居や手踊りの取り締まりが厳しくなると、屋台を飾る彫刻が増えていき、現在のまつりの形になったと考えられています。

ユネスコ無形文化遺産とは

ユネスコ無形文化遺産とは、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)による文化財保護の枠組みです。その目的は、世界各国の歴史・文化・生活風習と密接に結びついている祭礼・伝統工芸技術・芸能といった無形の文化の保護と、それぞれの文化のもつ多様さを尊重することにあります。



ユネスコ登録10周年
鹿沼今宮神社祭の屋台行事

「鹿沼秋まつり」の継承

響け、伝統の鼓動

“鹿沼今宮神社祭の屋台行事”は、全国の山・鉾・屋台行事のひとつとして、平成28年12月1日にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

登録から10周年、そして400年以上の歴史を誇り人と地域を結ぶまつりの魂は、今もお脈々と受け継がれています。



『ユネスコ認定証』

「^{いまみやじんじやさい}鹿沼今宮神社祭の屋台行事」は、日本国内の山・鉾などを伴う国指定重要無形民俗文化財の祭礼行事32件*と一括で「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。*その後、追加登録があり、令和8年8月現在は「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」を含めて37件

日本の多様な 「^{ほこ}山・鉾・屋台行事」

「山・鉾・屋台行事」の特徴は、地域の安泰や災厄防除を願って、木工や^{きんこう}金工、漆塗りや^{せんしよく}染織などの伝統技術で飾った山・鉾・屋台を曳いて練り歩くことで、日本の地域文化の多様性を示すものとして評価されました。栃木県では、「烏山の山あげ行事」(那須烏山市)が共に登録されています。

とうぼん
當番町のたすき

まつりを支える仕事と技術

もう一度締め直せば100年くらい持つんです。そのため、市外からも仕事の依頼がありますね。それに、良い車輪かどうかは、屋台の走る音で分かりますよ。屋台には、若衆や囃子方が乗って、その周りも大勢の人が囲います。私の仕事は、ケガ人を出さず、まつりが安全に進むことだと思っています。

※乾さんは県選定保存技術「祭屋台等車製作修理」保持者です。

彫刻屋台の車師
乾 芳雄さん

若衆頭への夢と名誉

普通の車輪は、車輪を納めてから20年程で修理を必要としますが、私の作った車輪は30〜40年経っても、

令和8年一番町上材木町若衆頭 田野 和広さん

一番町の役目を、千手町より拝命しました。今回、自分が若衆頭として参加することに、大変な名誉を感じています。

若衆頭たちが代々受け継いできたしきたりや伝統を大事に守っていきけるよう、次の世代にも教えていきたいです。



令和8年一番町上材木町若衆頭 田野 和広さん



令和8年當番町千手町若衆頭 牛込 清博さん

鹿沼秋まつりへの“情熱”を聞く

“音”で魅せるまつりと継承

屋台だけじゃなく、囃子でも魅せたいんです。遠くからお囃子が聞こえてくると「始まったな」ってワクワクするし、音が無かったらあの臨場感はない。秋まつりをこれからますます盛り上げていくために、「屋台」と「お囃子」の共存は不可欠なので頑張っていきたいです。もともと子どもたちや女性の囃子方が増えてほしいですね。子どもたちは宝です。伝統を絶やさぬためにも、子どもたちにお囃子の楽しさを伝えていきたいです。



鹿沼屋台囃子保存会会長 板橋 保治さん

皆でつくる次世代のまつり

考えるようになりました。今後も、屋台の現在位置や空いている駐車場が分かるような、パンフレット代わりのスマホ用アプリの開発や、医療の目線から、熱中症対策のための医療ボランティア派遣などに、段階的に取り組んでいきます。委員長として、伝統あるまつりを絶やさず大きくするために、市民と盛り上げ、進化していく体制を作っていきたいと思っています。



鹿沼秋まつり実行委員長 蓬萊町の若衆を22年経験し、「安全にトラブルなく、お客さんがまた来たい」と考える楽しいまつり

2日目

市街地中心部で屋台が揃い曳きし、自慢の屋台を披露します。各町の若衆は1日目の緊張から解き放たれてまつりを楽しみ、市民もマーチングバンドやダンスなどで盛り上げます。

一方で、「御巡幸」と呼ばれる、厳かな時代絵巻も繰り広げられます。今宮神社の神輿が氏子各町を渡御し、各町の安全を祈願します。



▲1日目：屋台の繰り込み

1日目

屋台の今宮神社への「繰り込み」と「繰り出し」が最大の見どころであり、氏子たちが今宮の神に平安の感謝と、畏敬の念を表します。

「繰り込み」では、各町の屋台が参道から鳥居をくぐって境内へ入り、本殿に正対して囃子を奉納します。「繰り出し」は、屋台が鳥居から出ていくもので、提灯の灯りと伝統の作法が、見る人を幻想の世界へ誘います。

「鹿沼秋まつり」の概要

鹿沼秋まつりは、1日目の「今宮神社祭の屋台行事」、2日目の「御巡幸」と市民まつりからなります。

豪壮かつ緻密な彫刻の屋台が特徴で、その数は27台。全国でも有数の規模を誇ります。各屋台には囃子方が乗り込み、まつりを盛り上げます。



今年の開催情報はこちら！

- 鹿沼秋まつり 10月10日(土)・11日(日)
- ぶっつけ(仮屋台奉納) 9月12日(土)

詳細や、交通規制などの情報は、鹿沼秋まつり公式ホームページでご確認ください。



鹿沼秋まつり実行委員会事務局 ☎(63)2188(観光交流課内)
鹿沼いまみや付け祭り保存会事務局 ☎(62)1172(文化課内)

ぶっつけ

交差点などで2台以上の屋台が向かい合ってお囃子を競い合い、他町の囃子につられないように演奏します。まつりの熱気が一気に盛り上がる、見どころのひとつです。

